

愛媛県産業教育振興会総会 教育長祝辞

令和元年7月4日（月）
にぎたつ会館

令和元年度愛媛県産業教育振興会総会が、盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。また、本日、御出席の皆様方には、平素から、本県の産業教育の振興に温かいお力添えをいただいておりますことに対しまして、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

昨年度、県内の高校を卒業した生徒の就職状況につきましては、皆様方の御支援、御協力により、非常に高い水準となっておりますが、一方では、県内での就職者については、近年、減少傾向にあります。教育委員会では、地元で学び、地元で就職し、地域経済の発展に寄与する、いわゆる「地学地就」を合言葉に、様々な事業に取り組んでいるところでありますので、今後とも、御協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、御案内のとおり、令和4年度から実施される新高等学校学習指導要領では、学校教育を通じて子供たちに育む資質・能力を社会と共有する、「社会に開かれた教育課程」の理念の下、各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントを推進することとされています。

県内の高校の活動を見ると、産業教育の基軸となる文部科学省指定の「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」事業では、船づくりをモデルケースとして地学地就に取り組んだ今治工業高校が、3年間の研究を終え、地元造船会社へ多くの卒業生を輩出するなど、大きな成果を上げました。また、地域水産資源を活用した、地方創生人材の育成を目指す宇和島水産高校は、産学官が連携し、商品開発やハワイへの缶詰輸出を果たすなど、本県の産業教育全体を大いに盛り上げております。このように本県では、既に、地域と一体となった活動を通して、地域に開かれた、信頼される学校づくりに取り組んでいます。

さらに、本年度から、地域振興の核としての高等学校の機能強化を目的とした、文部科学省の新規事業である「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」において、本県の3校が指定を受け、産業教育に関しては、小松高校のライフデザイン科が、地域に根差し、共生のまちづくりに貢献できる人材の育成に取り組むこととしています。

県教育委員会としては、今回の指定を受け、同校が、地域の実情や人材ニーズに応じた取組を展開することを通じて得られる成果を県内各校で共有できるよう、更なる支援を進めてまいりたいと考えております。

県政の重要施策の一つである「地域経済の活性化」を図るためには、企画力・実践力を備えた、地域産業を担う人材の育成は、極めて重要な取組であります。今後とも、

各学校において、地域や産業界等との連携を一層深め、社会の要請に適切に対応してまいりたいと考えておりますので、御出席の皆様におかれましては、引き続き、御協力・御支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

終わりに、愛媛県産業教育振興会のますますの御発展と、御出席の皆様方の御健勝、御活躍を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。